

ができる前は、ひたすら全国をツアーして年間300ステージとかやってた頃。アリスらしい、出向いて行くことだと思うんですね。

だんだん年取って面倒くさくなってくるけど、そこに行って、待っていてくれる人のところへ届けるのが、アリスらしいことなんだろうと。

市川さん

昔を見るとですね、一番多い年では300本強。300本強って言うと簡単なんですけど、計算すると月平均25本なんです。すると、1月に5日しかステージの上で歌ってない日がない。

頭おかしいんじゃないかっていうぐらい(笑)、すごしがんばって歌われてた。

ちんぺい

だから、ホテルに泊まって朝起きたときに一番最初に考えるのは「今どこにいるんだろう?」っていう。

ベーやん

あ〜、それはありましたねえ。起きて。。。夜中動いているんで、わかんなくなるんですね。土地が変わっているわけですから。

市川さん

当時は飛行機移動とかなく、ひたすら電車とか。。。乗り継ぎとかでしたよね。

ちんぺい

夜行列車で移動してましてね。今はもうなくなっただんですけどね、寝台車。

ベーやん

寝台車は乗りましたねえ、たくさん。

市川さん

荷物はもちろん自分たちで持ちで。。。。

ベーやん

手持ちなんですけど、もう。。。歌う赤帽さんみたいな感じですよ。

赤帽さんはギターを持つでしょ。

きんちゃんは途中から電子ピアノっていうのかな、そんなのが増えたんですよ。そしたらそれにまたプラスアルファでコンガとかね。

ちんぺいさんは2つ、スーツケースでしょ。そりゃ、すごい移動でしたよ。

ちんぺい

それで当時あの、やめればいいのにロンドンブーツが流行ってまして。かかと25センチ、つま先10センチぐらいのやつを。

ベーやん

ファッションにふりまわされてたんでしょね。

ちんぺい

それを履いてて、発車のベルが鳴ってる駅の階段を、そのロンドンブーツで荷物持って駆け上がるのが何度もありましたから。

矢沢は何回も捻挫したことがある。

じゃあ、脱ぎゃいいんじゃないかってことなんですけど、一回脱ぐと身長がすんと下がる。

脱げなかったという。

待っている人たちの街へ 出向いていくのがアリス

市川さん

でも、やっぱり待っている人というか、聴きたいと思っている人のところに、とにかく出て行くというのがアリスの基本方針だったということは、今回28年ぶりっていうのもやっぱり同じ、出向くのが本来の姿だということですかね。

ちんぺい

出向きたい。。。出向きたいんだよね、きっと。



ベーやん

そうですね。自然に身体に。。。みんなそれぞれ覚えてますから。染み込んでるんじゃないですかねえ。

だけど、さっきから懐かしい話が出て、その時代性の中で僕は忙しく動いてたんです。。。逆に今、振り返れば、そうやって動けたという、社会というか、世間というか、そういう場をくれたんで、僕はそういう意味ではラッキーだったなと思うんですよ。

まあ、確かにヒット曲が前半戦。。。半分以上は恵まれなかった。まあ、ヒット曲がすべてじゃないですけどね。

その後、10年っていうのはほんとにアリスが僕を変えた。今も歌ってますけど、やっぱり母船というか、一番大事な時期を作ったというか、だからそれもひとつ残せて、またこうして「どうです?」って、元気に節々痛くても出てこれたっの、うれしいですね。

